

昭和15年11月1日（金）

快晴。昨及び今、甘藷にて朝食を済ます。ミワさん四時起床、団体にて神社参拝。切手受取りに出局。記念切手購入。中畑スギ氏を訪ふて、保険復活取り計らふ。夜とろろ。八時忘れ物のおこし頂く。余は席を外し、南京豆（是はミワさん先日、小倉駅より求めたるもの）を取り出して下さる。煎り方不足、味悪し。

昭和15年11月2日（土）

快晴。此の朝甘藷頂く。とろろ夕方まで酸味を帯ぶ、取り棄つ。内容証明、代引、集金等の取扱いを取り止め、或いは停止の公報あり。訂正の為、一日を費やす。障子紙一枚四銭と三銭五厘のを、前者16、後者30枚求む。電気六時半頃停電。保険取扱費交付。電報書類調整追加請求の貯債、五十枚交付あり。ミワさん持廻り七八枚売らる。都留氏息病死、告別式にミワさん臨まる。

昭和15年11月3日（日）

快晴。家の内を掃除し、表道路をも。夫れより便所を溜掃。八時朝食。余留守居、鶴市神社に行く。片道バス20。九時出発、十四五分にて着せし由。恰も豊中製糸工場女工等、団体参拝後運動会、後昼食。午後一時半頃、再びバスにて帰宅。此の間、森久より電話。島澤より切手請求。中津局恩塚氏より、一戸一件報告催促等あり。西牟田氏、御式販りに立寄る。菓子30求め、残り分遣わす。十時半退出。夜食は甘藷、馬鈴薯、南瓜等の外、里芋の田楽を野田さんより頂きたる由にて、芋盡（いもづ）くしの御馳走あり。七時外出。八つ橋調製方注文に出掛く。多忙の理由にて皆断わらる。煎餅等40求

め、事務室にて母堂と共に頂く。野口氏発熱38あり、早く寝床。森田さん風呂に行かる。八時を過ぎ、くぐり戸より音なう者あり。其の声、堤さんに似たり。戸を開けたるに、永松さん等数名居る。即ち玄関より座敷に案内す。松永氏、永松氏夫妻、中尾勝正氏、竹野客氏等、土産頂く。一時間汽車待ち合わせの間、一身上の成り行きを陳述。ミワさんを引き合わす。九時二十五分送って駅に至り、発車を見送る。列車ブリッジより先方に奔出、雪崩を打って我勝ちと突進、争ひて乗車。鯨詰め混雑なり。十時過ぎて寝に就く。此の日快晴。保険の連中、一見八景の先まで遠足すと。

昭和15年11月4日（月）

此の朝六時巖来たり、昨夜佐世保の文夫来ると。豫て預かりありし十三円申込手数料交付、貯債一枚売り付く。全掃除に多忙を極め、相手になり得ず。十時頃、文夫来たり。百五十円貸与方申し出る。余断固、不信用の者に遣ること出来ぬと云ふ。時々声高くなるを制しつつ、諄々と説く。昼食を与ひ、三時頃一度巖の許に帰り、夜九時の汽車にて出発せしと云ふ。再び色々、余に福岡の土地問題に付き質問す。十時を過ぐ、遂に泊まらず。十一時過ぎなり。福岡に立寄り来れる由。恰度浦田さん博多駅に居られ、南十路の家を尋ぬるに便宜を得たる由。澄子より、はつたい粉を余の許に届け方委託されたる由にて、新聞紙に包めるものを出す。晴れ。資金受取りに行く。

昭和15年11月5日（火）

晴れ。朝、文夫八時近く起床、何れにか行く。余等、其の儘朝食を済ましたるに、九時過ぎ来たり十時出発すと

て、佐世保に通話申込む。容易に出らず。昨夜ミワ氏と協議、今朝百四十九円を即時払いし、百五十円電報為替にて、文夫出発後送る。鶴居長臨局。無集配局長給料手当、昇格の由。林檎を茶菓代わりに出されしを余も頂く。母堂、柿をも食べられたるが原因か、苦悶嘔吐数次。余、健胃下腹丸を求めたるもなし。快通丸と固腸丸とを求め、前者を差上ぐ。嘔吐止まらず。床に就きて猶継続後便通あり。八時頃漸く落着かる。夕食五時となる。電話料金別通話数報告、発送（九時近く文夫来る、九時の汽車にて帰るやに謂ふ。猶諦め切れぬか、福岡の土地問題に付き念を押す。叔父さん死んだ時は如何になるかと問ふ。彼此する裡、十時を過ぐ。遂に泊まる。新聞朝刊配達遅延の為、読むこと出来ず。夕刊は文夫来たりし為見る時間なかりし）。以上括弧内、昨日分重複記載せり。

昭和15年11月6日（水）証券保管中、国債不歸は料金を要する由なり。上博多町山本氏を訪ぬ。えび洲町、久留米区長を訪ね、安田生命と判明。主人公集金、外泊不在。三時近く資金請求。母堂具合悪く、起き上がれば眩暈する外、嘔吐さる。今日も生水多く吐かる。三時近く清松医師を訪ね診察を依頼さる。大阪行き不在。島原先生に電話し来て下さる。五時を過ぐ。薬師屋にて薬を調剤して貰ふ。夕方の食事は甘藷とし、二時半頃出来、同時に頂く。先生下剤ラキサトル、健胃剤、腎臓病配剤と三通り求めしめらる。猶、小便検査したしとあり。中風の疑いあり。血圧検査する由。此の夜母堂の傍らに寝て看護の衛に当たらる。余は母堂の部屋にて休む。其の間事務室にて豆入り菓子を頂く。

昭和15年11月7日（木）

曇り、朝の間晴れ。余切手請求、金額納付請取り共やる。先生九時来宅。診察、血圧検査の結果170あり。多少高きも此の位は問題にならぬ。次いで検尿にミワさん行き蛋白検出、腎臓と分かる。浣腸したるに多くの便を排出せりと。林氏工事落成自祝一円持参、帰る。後刻、膳部運ばる。今日甘藷。昨夜森田氏等の手にて、釜に入れて煮らるるばかりにして頂く。伊勢さん母堂、柿を持来らる。余二つ頂く。午後小雨、次第に冷ゆ。午後九時頃寢床。ミワさん風呂行き、帰る前に寝て居る。母堂浣腸後、気分見直さる。

昭和15年11月8日（金）

冷氣加わる。ミワさん例に依って神詣て。食事は昨、林より鮓三つ。母堂粥の残り及び昨夜の御飯、甘藷残り等大量頂く。九時、ミワさん柿坂の事務員研究会に出席。母堂はミワさんの出席を止めたき意向。小用は野口さんに頼む。その為、時々野口さん訪ねて行かる。遂に遠慮して頼まれざりき。然るに正午頃、自身這いて便所行かれたる由。二時十五分前、ミワさん帰り来たり判明。銘々に餅を分配さる。余にも同様、一包み頂く。各10銭の由。天気割合に良く、風なき場所の日向なら暖かなり。午後五時頃夕食頂く。逋信局より交付の貯金袋は、料理屋組合の世話人ユウキ氏に遣る。恰度局に来られたるを以て手交す。夕方より冷氣。此の朝巖来、集金振り込み。其の時、母堂病気の話、野口氏より切り出し一寸見舞ふ。先生島原氏七時頃電話、不来の申訳あり。戸籍のことより、ミワさん頗る不機嫌なり。家族手当を頂ける為、書

類発送を控えて・・・

昭和15年11月9日（土）

冷氣。昨夜脚部冷え、安眠不能。二時頃より漸く温まるも、此の頃起床近き時刻切迫、四時前十分起床。晴天。朝相談所より便検査コップ借用。更に八時半、再び小便を持行く。途中こぼれ手を汚す。朝、諸、野口さん等の手伝いを受け調理。母堂の粥残り及びスープ残りの野菜類頂く。夜も朝と同様。猶、麦粉菓子に砂糖混和されあり。昨夜より頂く。四時、西瓜糖40求めらるることを島原先生よりの薦めにて求め、七時母堂に進む。忽ち嘔吐瀉出。四時島原先生の診察にては、蛋白減少、血圧165、頗る順調とあり。愁眉を開きたり。伊勢さん六時まで居残り活動見物、一泊の積もりらし。佐世保光子より来翰。自分が罷（まか）り出づべき筈なるも、曩にも無心し再び行くべき元氣なく、文夫が金の心配すること、御金の貴重さを知る上に於いて、好箇の修練となる故等の理由にて遣わしたるもの。鯛送るとあり。九時、電気炬燵して寝る。

昭和15年11月10日（日）

紀元二千六百年祝典。十一時時二十五分、ラジオの電波に乗り近衛首相の万歳に唱和して万歳三唱、神酒を全員に分配す。伊勢さん昨夜一泊。母堂八幡に行くとして立寄られ、白米二升持参。病氣見舞いらし。昨夜愛子病氣見舞いに来たり。林檎五、水飴一瓶持参。其の林檎を伊勢さん母堂に返礼す。猶昨夜、愛子に持たせ遣りたるビスケットの残りも加えて送る。今日万歳の同じ時刻頃、旗行列、国防婦人会も繰り出す。母堂病氣の為、ミワさ

ん参列を辞退す。野口さん、愛子の家に久し振りに行く。余、防諜揭示、及び十六日より施行の郵便取扱停止す。一時的停止等の掲出物を掲げ、例の松屋より求めし接合剤を以て、火鉢及び鍋等を接合す。母堂病氣余程良し。西牟田氏、羅漢寺に有志と式後出掛け、五時四十分頃、帰途立寄り病氣見舞いす。六時頃より和服着用。母堂の側にてミワさんは切手請求書整理。余は新聞夕刊を閲す。甚だ痒し。九時過ぎ寢床、電気炬燵す。十時過ぎ、野口さん愛子方より販れる由。晴れ時々曇り。

昭和15年11月11日（月）

晴れ、戸外暖かなり。昨、巖二千六百年奉祝馳走、調製の由。風呂も沸きありしと。九時前出勤、新聞遅著の為、見ずして出勤。二千六百年奉祝二日目。母堂順調。島原先生来て下さる。五時半頃、血圧160となる。色々養生上の注意あり。ミワさん夜六時四十分頃、入浴行き。冷氣夜に入りて甚だし。九時過ぎまで母堂の部屋にて新聞を閲し、電熱蒲団を温む。九時二十分寢床。野口さん等、風呂に行き十時頃帰らる。

昭和15年11月12日（火）

快晴。切手請求出局。午後請取りに行く。山本利夫氏来局。野口さんの為に媒介の労を採らんとす。余に話す。母堂の病氣漸次良好。午後七時よりミワさんと外出。赤飯蒸し器、桶屋を訪ふ。京町にて注文。足鹽4, 00、蒸し器2, 50、計六円五十銭にて調製せしむ。夜割合に暖かなり。朝は薯を、夕方（三時過ぎ）御飯を頂く。此の朝、便所約一時間容易に通せず。頃日永くかかる。此の朝二週間振り髭剃りす。夜九時過ぎまで、母堂の側にミ

ワさんとあり。新聞を見、ミワさん切手二円不足を嘸（なげ）きつ。

昭和15年11月13日（水）

四時起床。降雨、黎明と次第に歇む。予報、午後霽れるとあり。其の通り次第に快晴となる。朝通信局より電話。北支関係四十五円の件なり。七時西牟田氏来。ホーレン草、野口さん等と頂く。昨夜六時頃も立寄り。此の朝、中津局電信の女子が口汚く小言を謂へたる由にて、森田さん等不満の処、再び其の咄が出でたる折り、西牟田さんなら負けぬ筈などと冗談謂ふ。不図も語れば影にて、西牟田さん見え、其の咄をして笑ひぬ。六時二十分退出、帰途に就かる。今朝青物持参、外、白胡麻頂く。五時過ぎ島原先生見ゆ。脉（みゃく）100多しと謂はる。後刻計量すれば七度あり。広島駅発甚十郎氏より、今朝十一時着の電報あり。ミワさん熱発に心配し、母堂、甚十郎氏の来着を今暫く快方に向かつてから来ればよいにと囁き遊ばさる。野口氏等砂糖を求め来たり、分配後風呂行き。余、母堂に林檎を二つ磨り汁差し上げ、其の粕を美味しく頂く。午後十一時二十分、ミワさんと迎ひに出る。甚十郎氏はミワさんと共に、母堂を挟みて寝らる。十二時を過ぎたり。

昭和15年11月14日（木）

朝、尿試験瓶相談所より借受け、予て切手資金の払込みを了す。販途、菅家原氏に遇ふ。停車場方面より来るを不思議とし尋ぬ。同僚八屋より通勤に付き、自分も八屋に下宿し同地より通勤の由を答ふ。十時、甚十郎氏と共に相談所に尿を持参、運良く患者少なく先生に挨拶、厚

く礼を述べるの機会を得たり。甚十郎氏より色々質問し、尿の検査の結果、蛋白を不見とあり。乃ち腎臓は恢復せし如し。尚大便持参し、熱の計量を当分努められたしとて表を下さる。午後、林檎蜜柑等求め、又赤飯をも求め来らる。午後四時三十五分の上り汽車にて出発。ミワさんと共に余も見送る。列車空席あり、割込み得たり。夕飯三時半、赤飯及びミワさん馳走の饅頭頂く。局員にも二つ当たり分配さる。今日快晴。午後、切手受取り来る。

昭和15年11月15日（金）

冷氣強し快晴。朝、薯及び熟柿頂く。九時半出局。午後三時為替終局時多忙。余、別窓口にて援助。島原先生五時過ぎ見ゆ。脉搏を図り血圧をも見らる。後者156。処方箋改めらる。二日分購入。事務室冷え、くしゃみ出づ。鶴居局分、大分より鏡一箱大荷物来たり、保管す。昨夜ミワさん南京豆求め来られ頂く。夕方飯と汁、汁は野菜豊富に入れあり。数杯頂く。市内商店休業多し。病人眠るのみ、血圧の関係らし。澄子宛て、明日帰れぬ旨、葉書通知す。ミワさん頻りに発送方を慫慂するに依る。今日ズボン下二枚重ぬ。夕食時、神酒を頂く。

昭和15年11月16日（土）

快晴。請求の貯債20枚送付越せり。九時より京町一丁目久永商店に行く。一度で判る。女主人らしき人、銀行に預金引出しに行き、二百円余に渡す。保管請求書持参したるも、貯金通帳所持なき由にて、月曜日保管する由。乃ち一旦帰局、代金を野口氏に預け、大塚町小曾門氏を訪ふ。これも一度も尋ねずして判明す。印章押捺して貰ふて帰るさ、富士紡前にて、ミワさん大便検査の為マッ

チ箱に入れて持参するに会す。昨、先生の処方箋による食前の薬は吐瀉したる由。オブラートが切れ薬が露出し居りたる為らし。後刻更に与ふ。今度は異状なかりしと。甚十郎氏奉天安着の電報に、母堂の恢復を祈る旨、記入あり。森田さんイリコに人参を加え、味飯造り我等に頒与す。六時西牟田氏来、十分間計り咄して帰らる。野口さん等、顔剃りに行かる。母堂大いに元気よしとあり。予て注文の鹽、及び蒸し器出来て来る。六円五十錢支払ふ。病室に二燭の豆電燈17求め、昨夜より点火す。余は電気スタンドを使用。保険規定改正に付き、法規訂正。ミワさん母堂の為に仕事多く、局の仕事は一向に出来ぬ。それでも切手は夜必ず検査さる。

昭和15年11月17日（日）

割合暖かなり。仍って便所掃除を綺麗にせり。新聞を見、御味噌を調製し、素麺に黴が生えて居るを全部煮出し、午後より出局す。三時半、夕飯に素麺頂く。西牟田氏来たり遊びて帰る。此の朝、野口氏より諸一皿頂く。夕方素麺やる。母堂病氣一喜一憂。脉搏98、熱発37、眠り病の如く良く睡る。夜八時外出。障子店三件を訪ふ。明日来て呉るる約にて、飯途大師館側より日の出町合馬時計店旁らに出て、果物店より南京豆を求め帰る。

昭和15年11月18日（月）

九時出局。切手資金二百余円中津局に払込み、販りに刷毛（はけ）数戸尋ね、本町薬品屋に尋ぬ。拾銭にて求めたり。明日襖及び障子等調製を要すに付き、一度見て呉るる様話合い、承諾せしに不拘、遂に見えざりき。野口さん折角風呂まで入りて仕度整いしも、約束の人見え

ざりし如し。久子より、三谷より柿送越せし由、通知あり。上田谷地より手紙同様送付せし旨にて、二十三日開函申越せり。午後より切手請取り。島原先生より電話あり。明日、小便持参方申越さる。澄子に葉書、柿のこと注意やる。九時より寢床、十時まで睡れず。

昭和15年11月19日（火）

曇り。五時前野口さん起床。金光様にミワさんと参拝。ミワさん便所まで来て余に報告。五時前出発。此朝十時、小便検査。腎臓は快癒に近し、心臓に故障ありと認むとて、其の方の処方箋を下さる。脉搏大きくなり。切手請求、金の払込み、受取り、資金請求と三度通ふ。鶴居局長臨局。荷物不配に付き指示あり。森田さん障子張りす。六時より西牟田さんと活動を観に行かる。此の間、野口さん代わって座敷の障子張換え下さる。余、後より援助す。二階の分は野口さん独りで張り、襖の破れも繕はる。十時近く森田さん等帰宅。十時寢床。

昭和15年11月20日（水）

夜半より降雨。午前中降り続く。午後より曇り。鷹雄さんより、七七茶の子として大型饅頭十一頂く。夕食事時、余二つミワさん二つ頂く。巖より葉書。去る十四日以来、愛子細川医院に送り、手術の結果電話に問い合わせたら安神してよいとのこと。付添婦を漸く頼み、炊事は自分で業務を廃して従事し居ると云ふ。夕食後、臨家の竹屋より頂ける鶏卵九つに六つ追加し、饅頭七つと共に余寸閑を割き持行く。巖チョッキ姿で炊事して居る。智子下痢、細川医院と一緒に送致、療治し居ると云ふ。澄子より第一生命払込み通知。天香師二十四日福岡着に付き、九

州大会開催方、ビラと共に趣意書送付あり。広瀬末一氏
ヤップよりポナベに転勤となる挨拶状送付越せり。森田、
野口、ミワさんを前に、天香師のことから仏仏を引き鬼鬼
を引く一条を三十分間話す。十時寢床。

昭和15年11月21日（木）

夜半降雨せしと見え、道路悪し。掃除出来ざりし。安田
生命山本氏への国債到着、持行く。保管せざることとな
れり。三千三百七十五円程は、郵便局売出し表示なし。
今日曇り、偶に霽れ。十時小便持参方、此の朝電話あり。
ミワさん持行かる結果、樂觀して可なりとあり。大いに元
氣附いて余に報告さる。電報書類差し立てを了す。頃日
朝上厠、一時間に迫（およ）ぶことあり。野口さん五時
前起床、神詣でさる。

昭和15年11月22日（金）

快晴。此朝五時、野口さん連れ立って神詣でさる。午後
五時、島原先生来診。母堂今朝来、途中ミワさん介抱す
るも独りにて上厠（じょうし）、熱発せず。脉搏も78位に
減退。東京トシコさんより手紙、六円見舞い下さる。曩に
貢さんより五円頂き、甚十郎氏よりも何程か頂ける如し。
森田さん午後より大分の養家かかり行かれ、伊勢さん五
分前に表戸を閉め帰る。午前中鶴居局長臨局。別府休
養所家屋代15円に利子2, 50、計17円25銭と、外に月
掛け賞金6円、計23円25銭受領。鏡40持行かる。切手
請求代金掛込み、午後より受取りに行き、安田生命山本
氏、振替加入請求書不備の点あり。同氏を訪ねたるも不
在。角野さんに振替受取金持行く。守谷さん居らる。同
氏近く海外に縁付く由。耶馬溪局長臨局。鏡30持行かる。

代金拾八円受領。八時前退局。渴きを覚ゆ。林檎、母堂の部屋にて頂く。

昭和15年11月23日（土）

新嘗祭。障子張り、廊下四枚分完了。光子さん北浦町に行かれ、夕方帰られ、次いで細川病院に愛子を見舞はる。明日巖に、病院に荷物の世話（二十五日退院）させ、野口さん留守居役引受方、依嘱を受くと。牡蛎（かき）隣室の病人より貰ひし由にて、半分五合弱、分配越せり。九時二十分、余此の時床に入る。鎌田氏ガラ持ち来たり、無煙炭千斤購入の手配依頼、諒解を得たり。四十円弱と云ふ。南京豆、林檎等薦められしも食欲なし。水飴少々頂く。野口さん裁縫する目的にて本朝洗濯されたるが、巖の許に行きたる為め、人手欲しさに待望の機会とて遂に捉まり、大迷惑の態。同氏不在中柿届く。一箇余の許に送らる。二十六開函とありしも、破損の場所より一ヶ抜き、ミワさんに薦む。渋は抜け切らぬも、食べられぬことなしと。

昭和15年11月24日（日）

黎明雨。紙屑籠の修理。便所のものと四個、二時頃までかかる。ミワさん髪詰み、白髪染め二時間かかる。鰯求め、母堂に鰯求め来らる。木炭、十三戸隣組に一ヶ月五俵と定めらるるに、二三生のもの。余の分本月配給さるれば、十二月は配給されぬと云ふ。母堂次第に病勢怠る。午後七時頃野口さん帰る。未だ自分の裁縫すら完全に出来ぬと云ふに、御手伝いの為に、一段と手遅れとなることは忍びぬと云ふ態度に見ゆ。久子来るかと幾分待ち心地にて居りしも、遂に見えず。日曜にて降雨の為、

渋り気味とも察せらる。森田さんより野口さんへ宛て電報、乗り後れた明朝立つとあり。夕飯の心配などして居りし際とて、其の方面の配意は用ひぬこととなれり。昨ライオン一号歯磨き楊子35にて求め、仁丹歯磨き、新しき容器のを取り出され此の日より使用す。

昭和15年11月25日（月）

昨夜降雨せしか道路悪し。掃除、目立ちし点のみ片付く。昨朝より仏前の読経と、神前の大祝詞とを兼ねることとせり。八時出局、門扉を開く。八時二十分頃伊勢さん来局。熟柿数個頂く。余二つ、おうつりに煎り子やる。久子此日来る筈なりしが、某鉱山事務所より採用申越し、此日十一時出頭方申来たりし為め、明日に延期せる旨の葉書あり。西園寺公、昨夜九時五十四分死去の旨、臨時ニュースにて此朝通知あり。年92と云ふ。森田さん午後一時の汽車にて帰着。豊肥本線中判田駅まで半時間を要し、昨夜の連絡なかりし為、空しく戻りたる由。今日窓口混雑。加之、切手請求頗る多かりし。七時過ぎ引き上ぐ。母堂の側で余はラジオを聴き、ミワさん切手請求調書を作成。九時過ぎより湯に行かれ、余は床に入る。

昭和15年11月26日（火）

晴天なるも風寒し。銀杏漸く落葉し初む。切手請求に行く。朝髯剃りす。ミワさん郵便改正規定研究会、中津局に行かる。無集配局は大貞駅前のみ来会せりと。久子来るものとして、恰も巖が母堂を見舞いに来たり居る際、一緒にミワさん野口さんと駅に行く。不来。ミワさん一時前、再び研究会行き。夕方までに三度行かる。野口さん二度行かる。何れも不来。夕方より寒冷増す。昨夜は電

気炬燵せしも、其の前は二晩、之を廃したるも凌ぎ悪しからざりき。一般に温度上昇の傾きありし際、急に冷却の度激し。ミワさん午餐は汽車弁持参。夜副食物頂く。野口さんより頂きし柿、今朝より頂く。久子午後六時五十一分着列車にて、為替横窓硝子の空隙より父さんと呼び掛く。思ひ掛けぬ時に来たりしこととて、自分に呼び掛けしとも思はざりし。ミワさん久さんと云ふに、さてこそと思ひぬ。横の受け渡し口より入り来たり。余に馬鈴薯、母堂に森永菓子、及び上田谷地よりの柿一籠持参。ミワさん夕食の心配して、隣家の林より鮎求め来らる。森田さん火を起こし下さる。七時半夕食を済まして、ミワさん野口さんと豊後町まで送らる。柿は殆ど痛み居るも、味は野口氏のより良し。大家さんに七つ、竹屋には野口さん分七つ遣る。森田さん方にも二つ宛て送る。森田さんより大分土産に蒔蘿草（ほうれんそう）沢山頂き、里芋も頂く。今日食膳に上ぼす。

昭和15年11月27日（水）

朝、可なり冷ゆ。十時よりミワさん小便を相談所に持行かる。十一時、生果市場に貯金取集に行く。午後二時過ぎ、資金請求に中津局行き。快晴、日向は暖かし。今日は冬支度。室内炭火恋し。中津局より、来る十二月二日より、正午より三十分間、中食時為替窓口閉鎖方来照あり。夜冷氣。甘藷、三時夕食時頂く。

昭和15年11月28日（木）

西園寺公国葬、十二月五日と発表さる。中津局ストーブ配置あり。今日の福日に村上辰熊局長の延岡に転任に付き、祝電発送置けり。逓信局に総務、業務、工務等部制

を布かれ、今日夫々人事発令あり。快晴。切手請求、代金払込み、及び請取りに行く。今朝請求書忘れ、中津局前より引返す馬鹿を見たり。夜保険料持参の公衆、空しく帰れることあり。ミワさん例の「お互いのこと」を繰返し、甚だ穏当ならぬ態度に出づ。六時島原先生来診、三十分程雑談。村上局長挨拶廻りに、午後三時立寄らる。諸洗ひ茹でる。夜七時ミワさんと外出。御飯蒸し器を探す。二人分を容るる器あるのも「なし」と云ふ向き多し。魚町より南京豆15、百匁求め、二階に上がり野口さん森田さん（布団敷き休みあり）と食べる。自分の部屋にて前日の残り豆食べ、林檎蜜柑も頂く。間食となりたる嫌いあり。ミワさんには柿剥き遣る。十時寢床。前日程、寒からず。

昭和15年11月29日（金）

朝久子来、和博連る。帰福を云為す。ミワさん、梨二つ与ひらる。すわらじ劇団、中川萬九茗氏、中津局より余を紹介したるらしく訪ね来らる。十二月四日当地にて開演するやにて、余も一臂（いっぴ）の労を辞せざる態度を示す。恰も、如水小学校の先生が光誌の袋を多数保存し、之を光泉林に送るに会す。名を藤永義高と称さる。同氏に割引券の売捌き方を約す。不取敢、ビラを局前に掲出す。夜とろろ汁。余の部屋にて、ミワさん切手請求在庫品調査。十時寢床。ミワさん十一時に及ぶと。

昭和15年11月30日（土）

夜半より降雨、午前中降る。切手請求に中津局行きの際、和傘持参。帰りは歇む。午前十一時過ぎ、資金請求の為、再び中津局行きの際、切手も持来るべく電話す。資

金は受け入れありし故、不要とあり、切手のみ持来る。
雨歇み時々陽が射す。すわらじ劇ビラ、活動ビラの上部に掲出の為、誰かしらまでかかる。拾参円四拾銭支払ふ（内訳二枚は各二円、一枚組みの分三枚中二枚は各三円）。夜冷氣甚だしく、火鉢を採る。巖夕方来、オーバー古物、用立てよと云ふ。